（春分・秋分）夏至・冬至の太陽遥拝スポット― 日本

2015 年の夏至で 2 度目の驚きの「聖なる光」の体験をして以来、更に、何だか面白い情報にであってしまった。そして、今年4月の熊本地震の影響で、GW10 日間の旅の行先が急にすっかり変わってしまい、思いがけず、不思議な巨石群の数々を見たり触れたりという体験をすることにもなってしまった。

これから、あらためてその旅の写真を整理していくのだが、もしかすると太古から、山頂や小島の水平線、または巨石群から出ずる「春分・夏至（秋分・冬至）の太陽」を祀る斎場が探され、その夏至の聖なる朝日に感謝し、「日の入」の方向に山頂や小島の間の水平線、または巨石群を想定した、「春分・夏至（秋分・冬至）の夕日に感謝する、いわゆる「**太陽祭祀**」が連綿と行われて（※ある人に言わせると**斎行**されて）きたのではないか・・・と、そんな想いがしてならない。

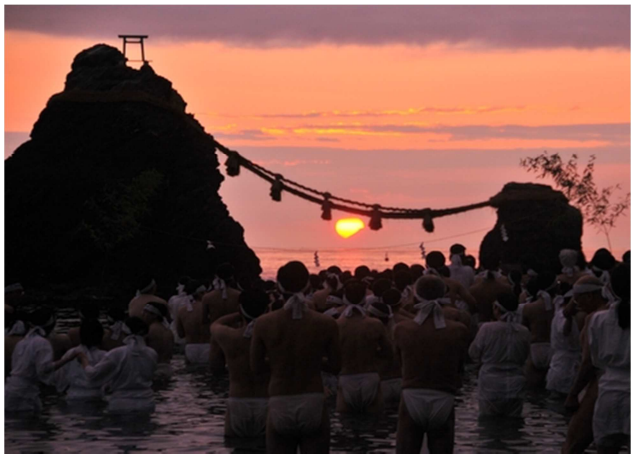
また、その行動は極地的なものではなく地域的でも、日本的なことでもなく、世界的な「**人としての自然で当たり前の行為**」であり、空間を越えた**巨大な集合意識のネットワーク**で満たされていた!?

そんなことさえも想えてきたところへ WEB を介してもっと見事に表現されているページに出会ってしまった!! しかも、そのページの作者は今回の旅で私たちが訪れた愛媛県松山市にある「**白石の鼻巨石群**」の研究家篠沢さんだったので一層面白く感じた。⇒**参考サイト**

……

太陽遥拝スポット 詳細

■**二見興玉神社の夏至祭**（三重県伊勢市二見町江）
⇒2014 年 6 月 14 日（写真等引用元）**伊勢志摩経済新聞**



夏至（写真は 2014 年6月 21 日）には毎年、夫婦岩の前の海に男性はふんどし、女性は白衣、頭には鉢巻を巻いて禊（みそぎ）を行う「**夏至祭**」が行われる、という。

お天気にさえ恵まれれば、広域伊勢志摩圏内の至るところで富士山が観測され、志摩市阿児町安乗（あのり）や志島（しじま）からも水平線の上に「巨大な島」が浮かびあがる。絹の羽衣をまとったように薄っすらと雲がかかっていたとしても、日の出時刻になるとベールの中から明るい光を放ちながら丸い太陽が富士山のシルエットを際立たせながら現れる。富士山の左肩から現れた太陽はやがて頂上に達して富士山に丸い帽子をかぶせたような形になる、のだとも。……

■夫婦岩の間から昇る太陽。日の出の一部が**富士山**に隠れて欠けて見えた＝写真は（2015 年）6月 22 日午前4時 44 分、早朝。伊勢市の二見興玉神社で**夏至祭**がある。下帯や白装束姿の男女約200人が海に入って日の出を待つと、夫婦岩の間から太陽が昇り始め、富士山に隠れて日の出の一部が欠けて見える。

夏至の前後約1週間、夫婦岩の真ん中から太陽が出ることに合わせ、みそぎをする。…夏至祭で太陽が姿を見せたのはこの年は4年ぶり、だったとのこと。
⇒**朝日新聞**

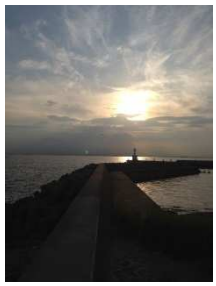
……

■**元伊勢 皇大神社⇒天岩戸神社**（京都府福知山市）

奇岩と清流、うっそうとした古木におおわれた幽境に神々が座して天下ったといわれる巨大な**御座石**が威容を誇っている。**付近の山一帯は、足を踏み入れてはならないとされる神域**で、岩戸山京都府歴史的自然環境保全地域に指定されている。

川向こうのピラミッド型の山は**岩戸山（日室岳）**と呼ばれる神の降臨を伝える神体山で、今も信仰の対象になっている。元伊勢内宮皇大神社からの参道の途中に**遙拝所**があり、**願い事をすれば願いがかなう**といわれる。 また、**夏至の日**には**岩戸山**（日室岳）の山頂に太陽が沈む神秘的な光景も見られる。
⇒**京都府観光連盟観光ガイド**

……



2016 年 5 月.7 日、実際にこの遥拝所に立ち、夏至の日差しをイメージしつつ日室岳を遥拝しました。

もしかすると太古から、二見浦（正確には朝熊山の山頂？）が「夏至の太陽」を祀る中心の斎場とされ、その夏至の「日の出」の方向に富士山・山頂を、そして「日の入」の方向に日室岳・山頂を想定した、「**夏至の太陽祭祀**」が連綿と斎行されてきたのではないか…

WEB で皆さんの気づきを読ませていただきながら、あらためてあの時の「感覚」を整理。今年の夏至はどこで過ごそうか…と楽しみ、お天気の都合で、市内にある**多屋海岸**で↑**奇跡の**「**夏至の禊**」が（日没前 18:07）!!

■**岩屋岩陰遺跡と光の体験ツアー**（岐阜県下呂市金山町）

金山巨石群」は、太陽の周期を読みとるカレンダーとして時を刻み続けている巨石群。

1998 年からの考古天文学調査によって、巨石群は単に自然にできた形状ではなく、巧みに形成されたものであることが明らかになっています

（但しその方法はいまだ謎に包まれています）。

そして金山巨石群の「こよみ」の精度は、現在最も正確な太陽暦といわれるグレゴリオ暦に近い周期での観測（128 年周期）が可能であることが、2015 年の調査で公表されました。

少なくとも 2,500 年は遡る暦の数値が巨石群に秘められています。 2016 年 2 月現在、米国の宇宙物理学博士およびドイツの考古学者らと共に、現場検証が行われています。

★**我が国「最強最古」のパワースポット　？！**

2010 年 6 月 21 日発行の『AERA』（朝日新聞 WEEKLY）にて “**我が国「最強最古」のパワースポット**” と題し、カラー 5 頁にわたる徹底取材の記事がヒットし、同年秋の観光バス「**パワースポット**」ミステリーツアーで一気に観光客数が増加しました。

暦の機能もさることながら、石のパワーに癒しを求め、石のエネルギーを享受しようと訪れる若者も増え続けています。巨石を見学するだけでも別世界を体験できますが、そこに秘められたミステリーとサイエンスは、ガイド解説を聞く価値ありです！

※体験者曰く-石のパワーもさることながら、やはり、この場で浴びる、第三の眼といわれる眉間でとらえる「**太陽の光**」こそ神秘的で最強のパワー、**意識の変容の源**となりますね？！

⇒**岐阜県下呂市銀山町観光協会**

■**鍋山メンヒル**（岐阜県恵那市の鍋山山頂近くの立石）

笠置山は雨乞い祈願の山でもあり、山麓には縄文時代の遺跡が多く分布し、石棒、御物石器等の珍しい石器や土器が採集されています。

この笠置山に至るはしご田散策道及び坂折棚田修景施設並びに**ペトログラフ**（右写真中央）散策道等を整備し、笠置山周辺からの棚田景観の展望とペトログラフ等の田園空間博物館へと連動しています。

（右写真下）は岩に刻まれた**岩刻文字模様**で、笠置山を中心に多数分布しており、雨乞いを示す**岩刻**といわれています。

笠置山で岩刻文字・模様（ペトログラフ）が発見されて以降、様々な議論が展開されながら、岩刻文字・模様（ペトログラフ）への関心が深まっています。

また、地元郷土史家の観察により、この 2 つの立石の間から**夏至の日の出**が上ることが分かっています。

⇒**農林水産省-恵那のページ**

■**吉備津彦神社**（岡山県）　**日の出祭（ 夏至の日）**

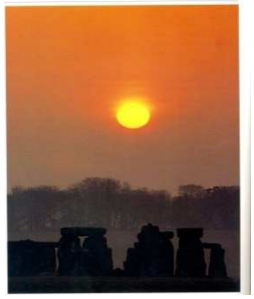
午前 4 時 15 分～：祭典

社殿にて祭典の後、拝殿前で朝日をお迎えします。

吉備津彦神社は古来、夏至の日には社殿真正面から太陽が昇ることから「**朝日の宮**」ともいわれてきました。

夏至の日は太陽の力が最も強い日であり、お日様に感謝する神事をおこないます。⇒**吉備津彦神社**

夏至・冬至の太陽遥拝スポット―　海外



・イギリス-**ストーンヘンジ**、アベニュー（夏至の朝日・冬至の夕日）中でも**「ヒールストーン」は夏至の日の出の方角を示す、特に重要な役割を持った石である。**

⇒夏至の日のストーンヘンジ

『巨石文化の謎』より